

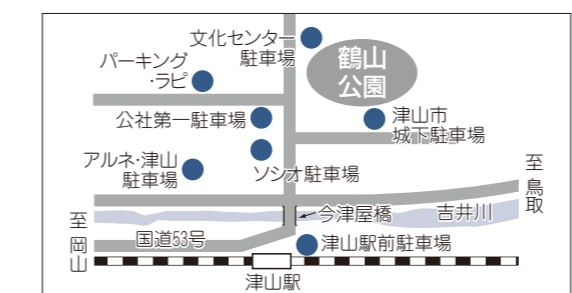
ごんご GONGO CLUB クラブ

わたしも
ごんごクラブ

駐車場空情報の
使い方について
教えて

これまで、駅前駐車場は利用者が多く、いざ自分が利用するときに満車かどうか心配なため、30分も早く時間に余裕を持って出掛けていました。でも先日、友人から携帯電話で駐車場情報を確認できることを聞きました。どのように使うのですか? (上河原・男性)

市では市街地中心部の駐車場空車情報をホームページで



ホームページ: <http://www.city.tsuyama.okayama.jp/>
※QRコードでアクセスする場合は広報紙の裏を参照

配信し、携帯電話でも見られるようにしています。携帯電話サイトへは市ホームページトップ画面から、パソコンではトップ画面右下にある「津山市の駐車情報」ボタンをクリックしてください。
提供情報 満車・空車情報、利用料金、位置など
※車椅子利用者専用スペースの予約も可(利用前日までに予約要)
お出掛け前にパソコンで確認! 目的地周辺に着いて携帯電話で確認! こんな利用方法もあります。さくらまつりでも活用してみてください。
都市計画課 32・2096

わたしのおすすめ

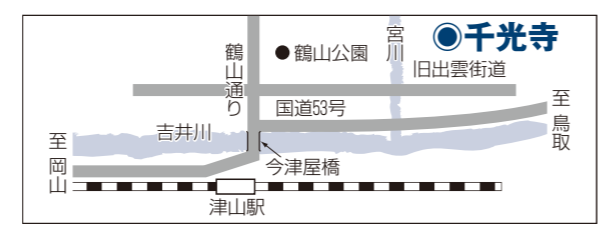
枝垂れ桜に癒されて...



赤堀昌枝さん (上之町)
毎年桜の時期になると、城東地区でひときわ目立つ1本の枝垂れ桜。千光寺に立つ樹齢100年以上の大木から垂れる枝がそよ風に吹かれるようすを見ていると、心が癒されます。開花中は、夜のライトアップもまた魅力。漆黒の夜空に幽玄な姿を浮かび上がらせ、昼とは違う姿を見せてくれます。桜の精が宿っているようで感性を養うにはとてもいいですよ。開花時期は鶴山公園の桜が咲く少し前なのですが、去年はほぼ同時でした。条件がそろると一気に咲き始めるようです。「花の命は短い」といいますが、1週間ほどではかなく散っていく姿も、またいとおしく感じます。



近年は遠方からも多くの方が訪れるようになり、ひそかなスポットになっています。とても繊細な木のため、垂れた枝を触り過ぎると弱ってしまいますので大切にしてくださいね。もうすぐ桜の季節。今年もまた知人をおもてなししようといろいろ考えると楽しみです。



リヤカーや自転車で全国を旅されていますが、関屋さんにとって旅とは何ですか?
京都市立美術大学(現芸術大学)の学生のころ、スケッチブック片手にふるさとを巡りするのが旅の始まりです。私の場合、親の都合もあって「ふるさと」と言える場所が西日本に何か所かあります。自分に染み込んでいる、いくつものふるさとの風景を探し求めて「旅」をしているのだと思います。もちろん、ここ津山にも来ましたよ。
20数年前には日本縦断の旅に、馬に乗って日本縦断をした大学生の旅行記をもとに絵本作りをしたと思います。自転車で北海道から九州まで。その旅で出会

った人や自然を描いたスケッチを参考に「馬のゴン太旅日記」を作りました。各地の表情を自分の目で見て感動して、それを作品にする。旅は私の創作活動に欠かせません。
今後の目標を教えてください。
この4月に出版する新作絵本の準備を進めています。これも実話に基づくもので、ヨットで日本を一周した大学生たちの物語です。そして、数年後には日本で初めて熱気球で飛行した大学生たちの実話も作品にしたいと思っています。陸から、海から、空から日本を。熱気球の絵本ができれば、冒険絵本3部作になります。
久しぶりに津山を訪れた関屋さん。「これを機に津山を舞台にしたごんご(河童)の絵本も作ってみたい」とうれしい言葉も。尽きることはない創作活動への情熱と意欲には驚かされました。これからも絵本を通して旅の魅力を伝え続けてください。



未来をひっぱる 津山人

ふるさとを求め旅に出る

絵本作家 関屋敏隆さん (津山市出身)



力強い絵で読む者を魅了する絵本の数々。童話や旅行記を題材に、50以上の作品を手掛け、いくつもの賞を受賞されています。今回は、葛飾北斎や安藤広重、山下清に「あこがれ、旅をこよなく愛する絵本作家、関屋敏隆さん」です。昨年末に市立図書館で行われた原画展・講演会「知床を描く」のため津山を訪れていたところを取材しました。
ふるさと津山はいかがですか?
生を受けたふるさとですから津山は格別なところですよ。写真や、その後の旅で訪れたときに比べ郊外の発展が進んで人の流れが随分と変わりましたね。
講演では「知床」について語られました。北海道の魅力とは? 本州では見られない地平線や雄大な自然があります。旅に出て最果ての地に立ちその風景を見ると心細さの中にも哀愁と旅情を肌で感じます。
知床の印象は?
1年の大半が雪に閉ざされ断崖絶壁に荒波が打ち寄せる、厳しい環境にある中、つかの間の春(初夏)に見せる自然の生命力に圧倒されます。きれいな花々や海風のおい、岩の質感...言葉では言い尽くせません。最近の作品は「型染版画」で作られているようですが。
「型染版画」は、図柄を切り抜いた原紙をテトロン(ポリエステル)のスクリーンにはり合わせて版を作り、布や紙の上に乗せ、インクをヘラで伸ばして刷り込む技法です。まず、布地に黒インクで輪郭を刷り、その後染料で彩色していきます。綿布の中でもインド綿の風合いがいいですね。